



「大根が悪くなる前にね...」春の風物干しカブを作る主婦（四月七日、高森で）



朝日新聞、新潟日報の「景勝百選」に選ばれたことを記念し、福島潟西揚水機場前に案内板が設置されました。これは、鳥類、植物類の生息状態が、一目で分かるようにと建てられたものです。

おひさまです

新生葛塚小の初代校長

巻口真弘さん（新潟市・五六歳）



「抱負というよりも、課題解決が急務だと思っています。この学校は、二つの学校が一緒になったでしょ、お互いに、良い所を出し合って、協調し、切さく磨いてほしいです。それと、グラウンド、体育館、プールなどを整備し、市の中心校にふさわしい学校にしたいですね。校舎が鉄筋なので、草花や木を植えて、校庭の緑化に努めることも大事だと思います。地域社会、保護者、教師が一体となって努力し、率直で誠実な子供に育てたいと思っています」

新しい葛塚小学校の校長巻口真弘さんは教員生活三十六年といひ新津市阿賀小学校から赴任されました。

新任校の感想は。

「校舎の設備について言えば、非常に細かい所まで配慮されていると思います。例えば、カサ立てが玄関にあるんです。従来のように廊下にあると、しずくが床に落ち、滑って危険なんです。水飲み場に、目皿板がはってあり、

水滴が飛ばないようになっているとか、教室の窓側に棚兼用の理科観察台があるなど、とにかく設備はすばらしいですね」

子供たちの印象は。

「人なつこくて明るいですね。実は、三十九年から四十六年まで葛塚小学校と木崎小学校に勤務していたんです。子供たちは、昔も今も変わらないですね」

「豊栄市の感想はどんなですか。」

「従来からある街並は、変わっ

「絵が好きです。二十代後半から、三十代前半にかけて、県展奨励賞（洋画）を三回もらったり、中央展にも何回か入選したことがあるんです。真剣に、絵かきになるうと思つた時期もありましたね」

新任地では、いつも「骨をうずめる気持ちで頑張る」という巻口校長は、西蒲原郡味方村出身です。

「魚が少なくなっても、手入れだけはきちんとしておかないとねえ、網の修理に余念がない前新田沖の吉田さん（4月7日）」



「交通事故には、十分気をつけてね、交通安全協会と交通安全母の会が、小学校の新1年生に、黄色いカサをプレゼントしました（3月31日、教育委員会で）」



(4)

他門大橋

他門大橋は、江戸時代に水原の小田島允武によって書かれた「越後野志」に、次のように紹介されています。

葛塚橋  
葛塚二在テ新郷川ニ掛タル橋也、長サ三十間余、比橋場初ハ船渡タリシガ、寛政

中、新二橋ヲ掛タリ、現在の橋は、昭和九年（一九三四）に掛け替えられたものですが、最初の橋は、寛政五年（一七九三）に掛けられた長さ二十五間、幅二間の板橋でした。

この橋は、新井郷川に初めて掛けられたものです。橋ができるまでは、渡船による方法が唯一の交通手段でした。

初代大橋の建設は、寛政五年一月二十五日の寄合で、家並（町方）から提案、次いで二月十四日には、水原代官所から建設許可を受けたことから始まりました。



木橋のころの他門大橋（大正2年竣工）

五月には建設届を代官所に提出するとともに、橋を利用する村々へ対して協力を要請しています。七月には、土地亀の村役人と現

この木橋の最後は、大正二年（一九一三）に掛けられたもので、昭和九年まで使用されました。

しかし、大正から昭和にかけての陸上交通網の整備や自動車交通の発達、特に大型バスの運行などにより、木橋を維持することができなくなり、昭和九年に現在のコンクリート製の橋に掛け替えられました。

市史編さん室主事 鶴間公男

市史編さん事業も今年度で二年目を迎えました。今後も市民参加の市史作りをめざしていますが、皆様方のお宅に、古い文書や写真がありましたら、市史編さん室（六一〇八一博物館内）までお知らせください。